

GW総決算

史上初の10連休 例年以上の人数

史上初の10連休となったゴールデンウィークが終わった。晴れた日が多かったこと、令和に改元されたことによる祝賀ムードもあって、観光地や道の駅などは例年以上の人数にぎわった。高千穂町には外国人観光客も多数訪れ、高千穂峡遊覧ボートの待ち時間は最長で9時間30分の日もあった。各地の道の駅も連日、大勢の客が来場。駐車場には県外ナンバーの車も多く止まっていた。5日に延岡市の砂見湾であった「貝掘りデー」には市内内外から親子連れなどが訪れて砂浜を埋め尽くした。各地の10日間の振り返り。

高千穂町「ボート待ち時間9時間半」

高千穂町は連日、九州内外の車やレンタカー、長距離バスなどで多くの家族連れやカプセルなどが訪れた。4月27日と5月6日の10日間、同町観光協会が運営する峡内2カ所の常設駐車場は夜が明けるとにはすでに満車となる日が多かった。臨時駐車場と高千穂峡、高千穂神社を結ぶシャトルバスも稼働。同協会は臨時駐車場を増やすなどして対応した。



写真を撮る観光客にぎわった高千穂峡（1日）

日向市 馬ヶ背、クルスの海が人気

日向市は、馬ヶ背を中心とした日向岬の観光地が人気。前半は雨の日など天気の影響でもやはり鈍ったものの、後半は天候にも恵まれ、例年並みの人出だった。馬ヶ背のビーチは3月20日増。4月27日と5月6日の約3万人が来場し

高千穂神社の神楽殿で行われている観光神楽「高千穂神楽」は4月27日と5月5日の公演を1晩2回に増やし、4月29日には計4,366人が鑑賞した。

天安河原まで1時間以上

同神社、天岩戸神社も期間中多くの人でにぎわい、天安河原では現地まで1時間以上待つ人の列ができた。同町の「高千穂がまた

多くの人が訪れた天岩戸神社の春季大祭



多くの人が訪れた延岡の道の駅。写真は、道の駅北川はゆま



売り上げ好調、延岡3道の駅

道の駅北川はゆま 4月27日と5月6日までのレジン通過数は3万6,479人。売り上げは、3日と過去最高となる約560万円を記録し、連休期間全体では昨年比で3割以上の増加となった。今年度は整備中の第3駐車場を乗用車専用と限定開放。期間中は駐車場ではほぼ満車状態が続いた。

道の駅北浦

昨年同時期と比べて来場者、売り上げともに約1.5倍と好調を見せた。特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

大分、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、メニューやチキンを焼き、マンガ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。

道の駅北浦

特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

大分、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、メニューやチキンを焼き、マンガ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。

道の駅北浦

特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

九州の中の鶴岡を越える高原にあるグリンドームには、カナディアンログハウス形式の宿泊施設が7棟あり、期間中は8、9割の稼働率、満室の日も半分を超えた。したいの館には、子どもの遊べる館のおもちゃなどもあり、昼間から多くの家族連れなどでにぎわった。グリーンパーク、炭焼の里では、今年度は例年並みの来場者、売り上げを記録した。5月4日、5月5日は、例年の子どものお遊戯のプレゼントも喜ばれた。今年は10日間期間が長かったという点も

か運賃最廉の売り上げを記録。レストラン海鮮館では「海のお宝貝」をはじめ、地元のウニや生シラス関連の商品が人気だった。

道の駅北方よつちみろ屋

昨年同時期10日間と比較し、来場者は約110%、総売り上げは約130%となった。昨年は期間中の営業日がいずれも1日少なかったものの、1日当たりの入館者は100人以上の増加。特に天候不順だった前半は好調で、4月29、30、5月1日は1日あたり1,500人を超えた。後半は4日の1,300人台が最多で、3日と2,000人台、5日と1,000人台だった。

道の駅北浦

昨年同時期と比べて来場者、売り上げともに約1.5倍と好調を見せた。特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

大分、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、メニューやチキンを焼き、マンガ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。

道の駅北浦

特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

大分、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、メニューやチキンを焼き、マンガ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。

道の駅北浦

特に天候も良かった。4、5日の来場者も、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパー、ハンカチ、タオル、お土産の体験を開催イベントの多くが好調をみせた。

道の駅北川はゆま

多くの人が訪れた延岡の道の駅。写真は、道の駅北川はゆま

多くの人が訪れた延岡の道の駅。写真は、道の駅北川はゆま

多くの人が訪れた延岡の道の駅。写真は、道の駅北川はゆま

10日間で入場者1万2千人超

ヘルストピア延岡 ゴールデンウィーク期間中は休みなし営業。道の駅とのコラボ商品販売のほか5月3、5日にはステージイベントを開催するなどして集客に努めた。10日間の入館者は14,000人（昨年比26.8%増）、1日平均1,000人という目標を大きく上回った。売り上げも前年比で108.4%となった。

貸別荘と満室に

4月27日と5月6日の期間中、定休日の4月30日を除いて9日間営業。県や福岡県などからの用で満室となった。また全体的に、孫や父母も一緒に大家族で訪れる姿が多く見られた。

減った要因として

道218号から同ランが、崖崩れのため通行できなくなったことが考えられる。逆に、今年は連休期間が長かったため宿泊者は増え、熊県や福岡県などからの用で満室となった。

また全体的に

孫や父母も一緒に大家族で訪れる姿が多く見られた。

また全体的に

第5170回数字選択式全国自治宝くじナンバーズ

(2019年5月6日抽せん)

ナンバーズ3	販売実績額	94,683,000円
	抽せん数字	2 6 5
	当せん口数	2
	当せん金額	
ストリート	79円	100,100円
ボックス	673円	16,600円
ち(ストリート)	141円	58,300円
ち(ボックス)	1,248円	8,300円
ミ	480円	10,000円

ナンバーズ4

販売実績額	238,686,600円	
抽せん数字	1 2 7 5	
当せん口数	2	
当せん金額		
ストリート	27円	865,700円
ボックス	543円	36,000円
ち(ストリート)	65円	450,800円

第1377回くじ6抽せん結果 数字選択式全国自治宝くじ (2019年5月6日抽せん)

本数字	01 07 13 24 40 43		
ボーナス数字	20		
等級	当せん条件	当せん口数	当せん金額
1等	申込数字が本数字6個と全て一致	2口	401,809,500円
2等	申込数字が本数字5個と一致し、更にボーナス数字と一致	2口	44,376,800円
3等	申込数字が本数字5個と一致	249口	384,900円
4等	申込数字が本数字4個と一致	11,683口	8,600円
5等	申込数字が本数字3個と一致	196,190口	1,000円

GW総決算

史上初10連休 例年以上の人出

史初の10連休となったゴールデンウィークが終わった。晴れた日が多かったと、令和に改元されたことによる祝賀ムードもあって、観光地や道の駅などは例年以上の人出でにぎわった。高穂町には外国人観光客も多数詰め掛け、高千穂峡遊覧ボートの待ち時間は最長で9時間30分の日もあった。各地の道の駅も連日、大勢の客が来場。駐車場には県外ナンバーの車も多く止まっていた。5日に延岡市の妙見湾であった「貝掘りデー」には県外から観客連れなどが訪れて砂浜を埋め尽くした。各地の10日間を振り返る。

高千穂町ボート待ち時間9時間半

高千穂町は連日、九州一カ所の常設駐車場は夜が明けるころにはすでに満車となる日が多かった。臨時駐車場と高千穂峡、高千穂神社を結ぶシャトルバスもフル稼働。同協会は臨時駐車場を増やすなどして対応した。同協会が運営する貸しボートは期間中、開始と終了時間を1時間延ばし、営業時間を拡大して対応。1日に約300組が利用できたが、それでも待ち時間が5時間を越えて午前中で受け付けを終了する日も多数。今月2日には早朝で受け付けを締め切るという過去最長の待ち時間9時間半を記録した。



写真を撮る観光客でにぎわった高千穂峡（1日）

売り上げ好調、延岡3道の駅

高千穂神社の神楽殿で行われている観光神楽「高千穂神楽」は4月27日～5月5日の公演を一晚2回に増やし、4月29日には計436人が鑑賞した。

高千穂神楽は、4月27日～5月6日までレシ通過数は3万2347人。売り上げは3日に過去最高となる約560万円を記録し、連休期間全体では昨年比で3割以上の増加となった。今年には整備中の第3駐車場を兼用車向けに限定開放。期間中は全駐車場ではほぼ満車状態が続いた。

大安河原まで1時間以上同神社、天宮神社も期間中多くの人がにぎわい、天安河原に現地まで1時間以上待たる人の列ができた。

同町の「高千穂がまた」では、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、アユやマナギ、たこ焼き、マンガイ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。

道の駅北浦 昨年同時期比べて来た場者、売り上げとも約2倍増を記録した。売店では製法を刷新した。特に天候も良かった4、5日の来場が多く、県内外のナンバーが駐車場を埋めた。月の焼き鳥、実演販売やスパーバンドホールすくい、握り体験など開催イベントの多くが盛況を見せた。

道の駅北川はゆま 大分、福岡、関西方面などの県外ナンバーが約7割を占めていた。朝食バイキングは毎日盛況で、アユやマナギ、たこ焼き、マンガイ、オリジナル商品の「北川の鶏炭火焼」なども人気を集めていた。



多くの人が訪れた天宮神社の春季大祭。多くの御神幸（20日）



多くの人が訪れた延岡の道の駅。写真は、道の駅北川はゆま（2日）

道の駅北方よつちみろ屋

が過去最高の売り上げを記録。レストラン海鮮館では「海のお宝丼」をはじめ、地元のウニや生シラス関連の商品が人気だった。

道の駅北方よつちみろ屋 昨年同時期10日間と比較し、来場者は約130%、総売り上げは約130%。中でもお土産品コーナーの売り上げが約170%と目立った。地元農家が提供する野菜類も約130%と増加した。来場者数は4日が最も多かったが、駐車場は期間を通してほとんど満車状態が続いた。今年には宮崎市や大分など近隣から来る人が多く、対照的に外国人観光客は例年に比べると少なかった。

同期間中の午後3時までは、全体の13%が県外車。最多は大分県、熊本、鹿児島が続いた。貸別荘など満室にEアウトルックの連泊者が多かった。4月27日～5月6日の期間中、定休日の4月30日を除いて9日間営業。入園者は1440人（昨年比280人減）、うち貸別荘などの宿泊者は249人（昨年比88人増）だった。

10日間で入場者1万2千人超

ヘルストラヤ延岡 ゴールデンウィーク期間中は休みのない観光客の賑わい。道の駅（のり）ボロ遊覧船のほかに、5日にはスライムイベントを開催するなどして集客を促した。10日間入場者は1万2000人、1日平均1000人という目標を大きく上回った。売り上げも前年比で108.4%となった。

昨年と比べ入園者減った要因としては、道218号から同219号につながる早川渡林が、崩壊のため通行できなくなったことが考えられる。また、遊園地は連休期間が長いため、宿泊者は増え、熊本や福岡県などからの利用が減少した。また全体的に、観光客の行動パターンが変化している。

2019.5.7